

見どころ案内

ギョリュウモドキ (ツツジ科)

カルーナ・ブルガリスの和名。ヨーロッパを中心に、ほかの植物が育ちにくい冷涼な気候で、やせた酸性土壌に分布しています。ウスキー作りに蜜、枝をほうきに利用するなど馴染み深い植物です。イギリスの荒野‘ヒース’を構成する植物の一つでもあります。冷え込みが厳しくなってきたこの時期、株全体が紅葉し、ロックガーデンで存在感を増しています。

ウメ‘冬至’^{とうじ}と‘紅冬至’^{こうとうじ} (バラ科)

極早生品種のウメ。ハナショウブも枯れ、静かな日本庭園ですが、もう極早咲き品種‘冬至’が咲き始めています。対面の^{やえかんこう}‘八重寒紅’も例年は1月中旬～咲き始めますが、蕾が色付き、開き始めています。展示資料館裏ではほんのりピンクに染まる‘紅冬至’をご覧ください。展示資料館裏のサザンカが咲く階段を上って、あずまや手前の左斜面に植際しております。

白侘助 (ツバキ科)

秋に咲き始めましたが、未だ蕾を着けております。蝶の訪れるバタフライガーデン(仮称)の整備中です。花壇には踏み込まないようにお気をつけ頂き、奥の斜面に近付いて、完全には開かずおちよぼ口様に、葉陰に咲く小さな花をご覧ください。

クレマチス

ウンナンエンシス

(キンポウゲ科)

中国原産の常緑冬咲きクレマチス。斜面上部に、開くと反り返る白色のがく片をたわわにつけています。未だほとんどが蕾ですが、いよいよ開き始めました。

ソシンロウバイ

(ロウバイ科)

芝生広場奥の早春の花木植栽区では、黄色く色付いた蕾が緩み始めています。蠟細工のように艶やかな梅に似た花をご覧ください。

サボテン温室

短日植物のアロエ(ユリ科)やカランコエ(ベンケイソウ科)のさまざまな品種が花茎を伸ばし開花しております。未だ蕾を立ち上げたものもありますが、普段は観葉植物や薬用植物としてよく見かける植物の開花した姿を是非ご覧ください。

日本水仙

(ヒガンバナ科)

海岸沿いに多くの名所がある日本水仙が、サクラ園の斜面でも盛りを迎えています。斜面のため足元に注意して近付いていただくと、早春の香りもお楽しみいただけます。

大温室改修のため休館

リニューアルオープンは平成29年秋ごろ(予定)です。

十月桜 (バラ科)

9月下旬～少数花ながら咲き続けていますが、日に日に花数を増やしてきました。

カンキツ類(ミカン科)

オオミレモンを始め、はるかやスダチ、カボスが色付いてきました。実際に樹に生っている姿をご覧ください。

新春の盆栽展

屋外に花の少ないこの時期、自然の造形の美しさ、巧みさ、それを盆栽という鉢の中で仕立てる術をご覧ください。

